

令和6年度 学校評価実施報告書

学校番号 076 学校名 千葉県立下総高等学校 課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>1 本校の特色を中学生や保護者、中学校職員へ積極的に広報活動を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校初任者研修の実施の際に、本校の特色について体験を通じて理解を深める広報活動を行った。 ・職員による中学校訪問の実施による広報活動43校(成田(10)・香取(9)・四街道(1)・佐倉(7)・富里(3)・印旛(2)・印西(9)・八街(3)・茨城(2)) ・学校説明会や体験入学の実施、校長は81校を訪問した。 ・HPの記事を頻繁に更新し、本校の今を伝えることができた。また、学校メールを活用し、連絡をすることで、学校への質問は減少し、安心安全に過ごすための対応が迅速にできた。 <p>2 国語・数学・英語において少人数指導の拡充を図り、入学前と入学後で理解度の向上が図られている。</p> <p>3 退学者数は、12月末現在で、一昨年度が2名に対し、昨年度は7名、今年度は1名、転学者1名。特別指導件数は12月末現在で、一昨年度が8件、昨年度は18件、今年度は3件である。小さな事案も見逃さず丁寧な指導が、件数の減少として現れた。</p> <p>4 園芸科、自動車科、情報処理科の日頃の教育活動や働きかけや補講等から資格取得率の向上がみられた。</p> <p>5 教職員の在校時間等の状況 80時間超過職員は、調査月の11月0名、平均26時間0分であった。</p> <p>6 学校運営協議会は、年に3回の運営協議会を実施し、地域からの支援をいただきながら学校運営が行われた。</p>	<p>1 ホームページによる情報発信の重要性を全職員で共有し、記事の精選や見やすさの改良に努め、生徒募集広報にも役立てる。また、ホームページだけではなく、SNSの活用も視野に入れ、様々な方法で広報活動を展開していく。</p> <p>2 習熟度別展開や少人数授業で個に応じた指導を行い、基礎・基本となる知識や技術を確実に身につけさせる。また、わかる授業・楽しい授業に向け、継続して授業改善に努める。また、基礎学力が一層確実に定着するよう教材の精選や展開方法の改善に努める。</p> <p>3 学校教育のあらゆる場を通じて自己有用感・自己肯定感を高めるとともに、生徒指導の充実と家庭との緊密な連携により、退学者の食い止めを図るとともに、専門高校についての中学生への働きかけと専門教育の学習内容についての広報と中学生の保護者の理解を促進するよう努める。</p> <p>4 各専門学科とも、生徒の基礎学力及び専門知識の着実の習得が図られるよう、教育課程を確実に実施するとともに、生徒理解に努め、教職員間の共通理解と個々の教員の指導力の向上に努め、家庭との連携を密にする必要がある。</p> <p>5 働き方改革の推進と勤務時間を意識した勤務の取組として、業務の質的転換及び量的削減、精選を図り、生徒に対して効果的な教育活動ができるようにする。 組織で対応し、個人に偏らない工夫と職員間が思いやりのある風通しの良い職場環境をつくる。</p> <p>6 学校運営協議会の制度をとおして、ともに歩む学校づくりを進めていく。</p>
学習指導	<p>1 学校評価では「授業に満足している」と回答した生徒が79.7% (昨年76.8, 一昨年79.4) と一昨年並の約8割となった。</p> <p>2 事前申込みによる授業公開を実施した。</p> <p>3 校内授業研究は、若手の研究授業を兼ねて開催され、中学校初任研受け入れるなど、学校種や教科の枠を越えた意見交換がなされた。</p> <p>4 資格取得のための補習や補講を計画的に取り入れ、全ての学科で資格取得を目指し、目的をもって生活することができた。この結果、資格取得率の向上が図れた。</p>	<p>1 生徒がより主体的に学べるよう、主体的・対話で深い学びの実践により更なる授業改善を図る。また、授業内容がわからない生徒を減少させ、理解が進んでいる生徒へは発展的な課題を示す等個別の支援と対応を図る。</p> <p>2 案内文書の配付範囲、校種を見直す。また、授業内容が具体的にわかるような記載とする。</p> <p>3 授業準備や基礎補習に十分な時間が割けるように、業務の精選や効率化を推進する。</p> <p>4 全ての教職員が進んで公開授業を実施し、指導力の向上と新しい教育技法の習得を主体的意欲的に行う。</p> <p>5 日々の補習・補講の実施と拡充、個別の支援等を重ね、多彩な資格取得に取り組みせるとともに、キャリアパスポートを計画的に活用し、将来の目標と実現に向け努力する姿勢を育てる。</p>

生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> 1 遅刻が少ない状況を維持しているのは、生徒に対する呼びかけや家庭連絡等を密に行い家庭との連携協力が得られた成果が表れている。 2 部活動清掃や部活動集会等、活動の活性化を図った。また美化委員や風紀委員会等で、中間的生徒の積極的な生徒指導を促進し、通学路の危険箇所の洗い出しや安全マナーの指導をした。 3 講話やワークシートを用い、自ら考え相手や自分の立場や人を思いやる心の理解を深めた。 4 いじめや体罰について被害調査をマニュアルに基づいて組織的に行い、実態把握に努めた。申し出のあった生徒からはすべて事情を聴き取り適切に対応した。 5 個人面談を学期に一度組織的に実行した。また、カウンセラーやSSW等との連携を図り、生徒の抱えている課題解消に向け医療機関とも連携を図った。 6 市町村関係機関や警察、児相との連携を促進した。 7 4月に部活動集会を実施する等、部活動の活性化を図った。 8 いじめに関する内容の生徒指導部だよりやカウンセラー便りを発行し、全校生徒に配布することで、一人で悩みを抱えないようにした。また、全校生徒に対する講話を行い意識の醸成を図った。 年3回、被害調査を含め組織的で徹底した対応を行い、いじめの早期発見・早期対応に努めた。また教育相談委員会との連携を密にした。 9 障害を持つ生徒に対する合理的配慮等について職員間で共通理解を図り、保護者との合意形成を図った上で組織として取り組んだ。 10 部活動の在り方と生徒心得の内容について生徒に考えさせるプロジェクトを実施した。 11 生徒指導規定を学校ホームページに公開する。 12 自動車部エコカー全国大会優勝(8連覇) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒への呼びかけによる指導を継続し、指導の効果を高める。 2 学校として部活動の精選を検討しつつ、職員へ課題を提起しながら共通理解のもと、部活の活性化と活動時間のバランスを図っていく。 3 実施した講話内容を振り返り、現在抱える生徒指導上の課題について実状にあった内容を検討し、より実践的で生徒の意識を高めるような講話や全体指導を企画する。 4 被害調査の実施継続と共に、職員の日頃の教育相談的技術向上と報告・情報共有から問題行動の早期発見・対策を講じていく。 5 特別支援教育アドバイザー等との連携し、課題を抱えた生徒への働きかけや指導についての助言をいただいたので、今後も継続して実施し、生徒理解と支援に役立てる。 6 保護者との連携を継続していく。また、特別支援の視点も踏まえた指導を実施する。 7 部活動集会に加え、部活動清掃等の活動もリンクし、更なる活性化を目指す。 8 いじめについては、日頃から校内はもとより保護者・外部機関も含めて連携協力体制を構築し、今後も早期発見努め、組織的に対応する。更に計画的な職員研修をするなどして資質の向上を図り、生徒の命を守る教育を充実する。また、授業や委員会活動といったすべての教育の機会を活かし、いじめや自殺防止に関し、生徒の自己肯定感を高める指導を展開していく。 9 中学校や関係機関との連携や生徒理解のための中学校訪問を実施することで生徒に関する有効な指導上の情報を収集し、情報共有や研修を実施することで途切れのない学習の支援や生活指導面に役立てる。 10 生徒自らが生徒指導規定を理解できるよう努めていく。 11 生徒指導について生徒や保護者に理解が図られるよう努めていく。 12 生徒の連携による技術の継承を図る。
キャリア教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 LHRを計画的に実施した。また、文化祭などの学校行事は、予定通り実施できた。 2 学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動等を年間計画に沿って実施を検討し、生徒の主體的な態度が養われるように実施した。進路集会、進路講演会の実施、進路体験発表を実施した。 3 学年毎に、進路ガイダンスや外部講師を活用した進路講話における「アルバイトやニート、就職活動の時期」など生徒が抱える課題について考えることができた。また、外部業者を活用した進路フェアへ生徒が参加した。 4 就職試験に必要な適性検査やSPI検査を実施した。 5 進路決定率93.1% (就職70.4%、進学29.6%) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 LHR等の効果的な計画策定を継続していく。 2 学校行事、生徒会活動の活性化を継続する。具体的には、生徒会や評議委員会等で、生徒が自主的に活動するよう指導し、自主的・実践的な態度の育成を図っていく。 3 キャリアパスポートを有効に活用し、将来を見据えた、学習活動や目標を設定し、それに向けての努力や資格取得の状況をその都度記載する。 4 進路講話や進路ガイダンスは、生徒の抱えている課題や生徒の実態に合った企画を考え、進路に対する意識付けをし、就職や進路未定者の減少を図る。 5 次年度以降も各検査を活用した指導を継続して実施し、基礎知識の定着を図る。

<p>特別活動</p>	<p>1 環境教育モデル校として3学科協働のプロジェクト（下総・e c o・イルミネーションプロジェクト）に取り組んだ。その成果をまとめ、課題研究発表会で発表した。 学校行事として課題研究発表会を実施。全生徒が各学科で取り組んだ研究について知る機会を設けた。</p> <p>2 寮での集団生活を通じて、自主性、協調性、豊かな人間性等を身に付けることができた。今後の高校生活に活かすことが期待できる。</p> <p>3 園芸科では、全員が農業クラブに加盟し、今年度は、校内でのプロジェクト発表や意見発表行い、日頃の活動の成果を披露した。また、県内の農業高校の取り組みや地域的な課題について考えを深めることができた。 農業鑑定競技など校内外の活動を定期的にホームページに掲載し、PRに努めた。</p> <p>4 自動車科では、日々の授業や実習を通じ専門知識・技術を身に付け、自動車整備士3級合格を目指した。</p> <p>5 情報処理科では、検定受検を積極的に促しその結果、多くの生徒がより高い資格を手にした。また、職業人として備えるべき技能やマナーを身に付けさせ、社会人基礎力の向上が図られた。</p> <p>6 ユネスコスクールとしての活動を、生徒会活動や産業教育と関連づけた上で、地域に根ざしたテーマ設定に基づき学科横断的な手法で推進した。</p>	<p>1 ユネスコスクールとしての活動の整理と、課題研究活動の活性化を図るために、地域の各種団体と協働できるような環境づくりが必要である。</p> <p>2 寮教育においては、寮設置の本来の意義を忘れることなく、生徒個々の成長を図れるよう、さらに指導内容の充実を図る。 寮舎監においては、働き方改革とは逆行し、職員の負担が大きいとの意見があり、舎監の人数を増やすことにより、舎監一人あたりの負担軽減を図る。</p> <p>3 農業クラブ活動においては、昨年度、研究発表大会では意見発表の部において千葉県代表となり関東大会にて優秀賞を受賞したが、今年度は県大会を突破することができなかった。今後は県大会突破を目指していく。また、今後、グローバル的な発想とローカル的な活動のシンクロを図る必要がある。</p> <p>4 自動車科では、自動車整備士試験合格率、昨年度約50%（一昨年度約80%）であり、合格率が低下した。今年度、合格率を向上すべく指導に励んでいる。</p> <p>5 情報処理科では、資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。また、生徒の進路に対する意識を高め、目的意識を持って学校生活を送る。また、課題研究を中心とした授業を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>6 本校の様々な教育活動を「ウェルビーイング」「持続可能な社会の創り手の育成」の視点から捉え直すことにより、個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力の向上を図る。</p>
-------------	---	---

(第3号様式-2)

<p>自己評価・学校関係者評価 ・今後の改善方策の公表について、時期や公表方法を明確に記入する。</p>	<p>アンケートの集計結果、アンケートの自由記述欄に対する対応を11月の第2回学校運営協議会で提示する。またアンケートの集計結果及び自由記述欄に対する対応、令和6年度学校評価実施報告書を3月中旬に学校ホームページに掲載し、保護者・地域の方等に広く公表する。</p>
--	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
<p>学校経営</p>	<p>1 ホームページにより、学校行事の概要が紹介されているので、生徒の活躍の様子がよく分かる。</p> <p>特色ある専門教育の推進と資格取得を図る。 連携の強化(近隣小中学校、地域や産業界、関係団体、同窓会等) 特別活動や学校生活をとおして、社会の一員としての生活や人間関係をつくる。 専門教育の推進及び技術の定着、外部団体との連携を図る。 卒業生の中から優秀な経営をしている人を講師としてお願いする。 昔は、農家に生まれたら、本校へ進学し農業の後継者となるように勧められたが、現在は、大規模農業へ変わり農業後継者が少なくなった。</p>	<p>1 本校の教育活動を外部へ発信する際、ホームページは最大のツールとなっている。その点を教員間で再確認し、記事の充実と更新の迅速化を推進する。また、学校目標や教育課程等本校の基本情報を掲載する場所でもあるので、特に受検生の要望に十分応えられる記事の構成に努めたい。引き続きSNSによる情報発信も行っていく。</p> <p>地域連携は本校にとって極めて重要な事業である。平素から関係団体との連携を密にし、教育課程と関連づけた上で3学科とも積極的に取り組みたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>1 学力の把握を各学年及び学校全体で共有する。 生徒自身に目標を立てさせ、基礎学力の定着を図る。</p> <p>社会人としての基本的な知識・技能を身に付ける。</p>	<p>1 授業では、基礎・基本を重視した上で、「わかる授業」「身につく授業」を展開し、基礎学力の確実な定着を図る。さらに多くの生徒に十分な成就感を味わってもらえるよう、指導体制の拡充に努める。</p> <p>また、教科指導の様子等は、外部の方にわかりにくい部分なので、ホームページでの紹介の回数を増やすとともに、授業公開の機会を頻繁に設け、より多くの人に関心を持ってもらうように発信する。</p> <p>2 検定試験の実施時期やその対策を計画的・継続的に実施していく。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>1 学校評価アンケートの結果では、現在の生徒指導体制を肯定的に受け止める意見が増加している。</p> <p>2 悩みを抱えた生徒に、寄り添う指導とその後の適切な指導や相談にのっていただき感謝しています。</p> <p>3 道徳として、次の2点を育てて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生らしい生活の指導 ・他人を思いやる心 	<p>学校教育のあらゆる場面を通じて自己有用感を高めるとともに、生徒指導の充実と家庭との緊密な連携により、進路変更者を減らし、本校での卒業を目指す指導が重要である。</p> <p>1 具体的な指導方法について職員の十分な共通理解を図った上で、学校生活のあらゆる場面においてきめ細かな指導を展開し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める状態を保つ。</p> <p>2 保護者との連携を緊密に図り、学校と家庭とが協力しあう中で生徒が成長を図れるような体制を作る。スクールカウンセラーとの一層の連携強化に努めるとともに、外部との連携(スクールソーシャルワーカー、外国人児童生徒相談員)を図り、ヤングケアラーの課題や外国人生徒の悩みや就職上での諸課題の解決に向けて外部との連携を強化する。</p> <p>誰にも相談できない生徒からのサインを見逃さないよう全職員で情報を共有し、継続してきめ細かな指導にあたりたい。</p>

キャリア教育	<p>1 将来の目標の実現に向け、職業人としての作法やコミュニケーションを身につける。</p>	<p>1 1年生から適切なキャリア教育を展開し、各専門学科での学習内容と連動させた上で、早い段階から望ましい職業観、勤労観を身に付けさせ、希望する道に進めるように指導することにより、進路未定者に対する指導の充実を図る。</p> <p>2 昨年度、進路決定率100%であったが、今年度は全員が進路を決定することができなかった。次年度以降は全員が進路が決定するようにしていく。</p> <p>(1) 就職希望者の選択の幅を広げるための企業開拓</p> <p>(2) 1・2年の段階での意識付け</p> <p>(3) 情報収集や資料閲覧方式の指導</p> <p>(4) 履歴書作成や面接対応に係る個別指導等の充実を力を注ぎたい。</p> <p>(5) 就職試験において、オンライン面接を行う企業もあるので、柔軟な対応と指導の充実を図る。</p>
特別活動	<p>1 学校は授業や行事についてよくやってくれていると思います。</p>	<p>1 学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動ともに、ある程度は生徒主体で運営されるようになった。しかし、まだ教員がリードする部分も見られる。今後は生徒主体で運営できるように指導と意識付けを行う。</p> <p>2 3学科が連携した教育事業として、課題研究発表会を協同して開催する。次年度以降は、生徒主体の事業の開催に向けて準備を進める。</p>
特色ある教育活動	<p>1 産業教育の面では、資格取得に大きな成果が上がっているとのことである。進路活動とも関わる大切な部分でもあるので、今後も継続して積極的に取り組んで欲しい。</p>	<p>1 ユネスコスクールとしての活動については、本校の様々な教育活動を「持続可能な開発のための教育」の視点から捉え直すことにより個々の取組の目標を明確化し、それらを有機的に関連づけて学校全体の教育力を向上させる方向で推進すべきである。</p> <p>ただし、校内の運営体制及び主管部署については見直しを行い、効率的に事業が進められるよう推進主体を明確にすべきである。</p> <p>2 寮教育については、基本的生活習慣の確立・人間関係作りは概ね達成しつつあるので、今後は生徒による自治という面について意識的に進めていく必要がある。</p> <p>3 農業クラブについては、校内での活動を目に見える形で活性化させる必要がある。</p> <p>4 今年度、3学科の課題研究代表発表会を合同で開催することができた。次年度はさらに内容を充実させるとともに、近隣校等にも公開することを検討したい。</p> <p>5 資格取得について積極的に支援し合格率の向上を図る。</p>